

学校だより



平沼

横浜市立平沼小学校

令和2年7月31日



Mail ; y3hiranu@edu.city.yokohama.jp

URL ; <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hiranuma/>

自然のリフレイン

校長 長谷川絹子

例年になく長い梅雨が明けるのは、もう少しかかるようです。

今年は、いろいろな異例のことが多く、忘れることができない2020年になりそうです。新型コロナウイルス感染症対応もまだまだ油断することができず、気を引き締めて予防しなければなりません。先日、ようやく今後の学校行事予定をお知らせすることができましたが、状況に応じて変更せざるを得ないことも想定しており、ご理解いただきながらお子さんの安全安心を第一に教育活動の充実を図っていきたいと思っています。

学校としては新型コロナウイルス感染症、熱中症、教育課程の充実等の大きな課題を抱えています。視野を広げてみると九州をはじめ多くの地域に被害をもたらした豪雨に心が痛みます。特に熊本では、2016年の大地震を乗り越えてきたところへの豪雨、やっと片付けが進んだところへ再び浸水…、新型コロナウイルス感染症と闘いながらのご心痛はいくばかりのことかと言葉を失います。

以前、作家の落合恵子さんのエッセイに「自然のリフレイン」という言葉がありました。この言葉は、レイチェル・カーソンの本に書かれているものです。

鳥の渡り、潮の満ち干、春を待つ固いつぼみの中には、それ自体の美しさと同時に、象徴的な美と神秘がかくされています。自然がくりかえすリフレイン ～夜の次に朝がきて、冬が去れば春になるという確かさ～ のなかには、かぎりなくわたしたちをいやしてくれるなにかがあるのです。

「リフレイン」という言葉は歌や音楽で使われることが多く、「繰り返し」という意味です。一年一年淡々と四季を生き、繰り返している植物の様に触れると、自分も今すべきことをしっかり見つめ、大切に、ていねいに過ごしていきたいと思うことがあります。不安ばかりの中でも、時は正確に刻まれていくという揺るぎない確かさは、心のよりどころともなります。そして、いつしか時が過ぎ、悩んだり辛かったりしていることでも距離を置いて考えることができるようになっていないのでしょうか。自然の猛威の前に佇むまだまだ厳しい状況ではあると思いますが、路傍に咲く小さな花や青々と茂る木々に目を向けるほんのひとときでも訪れることを願わずにはられません。

子どもたちの学習の中にも自然や四季に親しんだり、科学的に観察したりする多様な内容があります。活動範囲が狭められたり短かったりするこの夏休みではありますが、身近な植物や自然が発している生きる力を感じ取ってほしい、前向きに歩いていくエネルギーを得てほしいと思っています。

今年の夏を心に刻みながら、リフレッシュできる夏休みをお過ごしください。そして、8月17日に元気な子どもたちに出会えることを楽しみにしています。